

認知症養成講座の極意

リレー連載



～きらめき介護塾の取り組み～

(社)きらめき認知症トレーナー協会 理事 三浦 祐一

東邦大学大橋病院、医療法人友康会 常務理事、大手医療福祉グループ経営理事、株式会社メディカルクリエイトを経て社会福祉法人天佑を設立。2012年埼玉県所沢市で特別養護老人ホーム アンミッコを開設。2015年一般社団法人きらめき認知症トレーナー協会理事就任。

昨年設立された一般社団法人きらめき認知症トレーナー協会より、認知症の人とのかかわり方を伝える人材の育成について紹介する。

新連載 会の立上げ

昨年4月1日、一般社団法人きらめき認知症トレーナー協会が発足されました。

協会の説明の前に、当会の会員である「トレーナー」達がどのように養成されたのかを説明します。

協会の代表でもあり、きらめき介護塾（北九州市）の代表取締役である渡辺哲弘氏が、養成講座を開催し、協会発足前3年間で100名超のトレーナーを養成しました。さらに本年度からは、スライドによる講演ではなく、その内容を簡易版にした紙芝居を作成しました。そして養成講座を受け、この紙芝居講座ができるようになった方を「シスター」と位置づけました。これら

トレーナー・シスターが中心となり、認知症トレーナー協会が発足されました。会員数は10月1日現在で

トレーナー188名、シスター1387名、フレンズ1643名の計2209名です。「一日でも早く、一人でも多く、全国の方に伝えたい」という理念のもと、「受講者数日本一」「トレーナー・シスターの結束！」「トレーナー・シスターの養成」「一人ひとりが一回でも多くの講演を」を目標に掲げ、活動しています。

きらめき認知症トレーナーが開催する講演では、認知症で悩む方やご家族、認知症の介護にかかわる全ての方々が笑顔で暮らせるよう、認知症の基礎理解・認知症の方とのかかわり方・認知症の予防についてお話します。なんといっても最大の売りは、内容のベースは認知症サポーターキャラバンの資料に沿った形で作

設立1年で聴講者数約4万人へ

成されているということですが。心情に訴えるものやクイズ・ゲームなどを入れており、大変楽しい内容です。講演後に実施したアンケート調査によると、満足度は90%以上です。

2種類があり、これらの紙芝居ができる「シスター」になるためには、7時間（2テーマ）の研修を受けることが必要です。

講演テーマは次の3つあります。①認知症の理解とかわり〜思いを理解してかわる〜（一般の方向け）90分、②認知症の理解とかわり〜思いを理解してかわる〜（専門職向け）90分、③認知症の予防〜脳を元気にしよう〜90分。これらの講演ができる方を「トレーナー」と呼んでいます。

認知症サポーターキャラバンは、市町村が主体となった大掛りなものですが、きらめき介護塾の講演はパソコン、プロジェクター、スクリーンがあれば日本中いつでもどこでも行うことができます。また紙芝居があれば、パソコン環境がな

講演テーマは次の3つあります。①認知症の理解とかわり〜思いを理解してかわる〜（一般の方向け）90分、②認知症の理解とかわり〜思いを理解してかわる〜（専門職向け）90分、③認知症の予防〜脳を元気にしよう〜90分。これらの講演ができる方を「トレーナー」と呼んでいます。

認知症サポーターキャラバンは、市町村が主体となった大掛りなものですが、きらめき介護塾の講演はパソコン、プロジェクター、スクリーンがあれば日本中いつでもどこでも行うことができます。また紙芝居があれば、パソコン環境がな

また、昨年度作成した簡易版の紙芝居講座には①認知症の理解とかわり〜私たちにできること〜30分、②認知症の予防〜私たちにできること〜30分、以上の

くても実施できます。日曜・祝日や夜間の実施もできる手軽さがあります。そして、なんといっても講演内容の楽しさ・満足度が一番だと思います。

私は社会福祉法人を運営しておりますので、地域貢献の一環として地域住民を対象に講演活動を行ってまいります。また最近はじめた「アンミッコカフェ（認知症カフェ）」にて、紙芝居を実施しています。

今後はトレーニング会員を年間100名増やし、そのトレーナーは年間25名のシスターを養成していきます。そしてトレーナー及びシスターは講演・紙芝居を一人当たり年間100名に実施することを目標とします。この目標を10年間続けて達成できれば、キャラバンメイトの活動を超えることができると思われま